

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 3月 日

事業所名 ハート愛

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	43%	14%	壁を抜いて広い空間確保	法人の放デイ建物新築計画に参画
	2	職員の配置数は適切である	14%	43%	現有職員の資質向上	有資格者等人材募集
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	14%	14%	低学年対応の便器設置	車いす対応の手洗い場等改善計画中
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	47%	0%	各評価結果の共有	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	86%	0%	評価表はもとより、口頭でも随時聴取	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	57%	0%	HP公表のことを職員にも周知	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	86%	14%	公開療育等の機会に評価依頼	評価者を、学校、総合療育センター等にも拡大する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	86%	0%	事業所内研修時間の確保	今後も外部講師招聘研修を、近隣の放デイ事業所に案内し、合同研修の機会を持つ。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	86%	0%	児発管中心に担当及び事業所内全員で検討	今後も専門機関との契約で継続的にOT、ST等の指導を受け、質の向上を図る。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	86%	0%	市販の「SM社会生活能力検査」使用	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	86%	0%	前月中旬までに立案	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	8分野に分け、変化を持たせている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	86%	0%	終日でなくてはできないことを優先実施	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	57%	14%	活動内容によって班編制	個別支援計画レベルでの記述検討
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	57%	0%	時間を決めて反省・計画の検討	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	43%	14%	同上	即日実施のための送迎担当の可能な限りの調整
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	即時記録の実施	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	86%	0%	全員で共有して実施	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	86%	0%	8分野に分け、組み合わせ合わせている	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	71%	0%	児発管と担当者 が出席	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	保護者を通じて「夢すこやかファイル」等のツールも必要に応じて活用	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	29%	0%	該当児在籍時は 充実	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	43%	0%	「夢すこやかファイル」等活用	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	71%	0%	保護者を介して、 児発管を中心に 連携	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	71%	0%	総合療育センター職員招聘による研修実施	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	29%	29%	夏祭り等きょう時 活用も不十分	鹿児島市南部地区の児童クラブ等との組織的交流の機会を計画する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	29%	14%	現在相談支援専門員出席	今後は放デイ職員も出席の方向で検討
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	電話及び送迎時 活用	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	86%	0%	外部講師による ペアトレ実施	今後も継続的に特別支援学校の専門家を講師にペアトレを実施する。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	57%	0%	児発管が中心となり説明	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	71%	0%	OT、ST等の助言 を交え伝えている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	57%	0%	事前アンケート実施で、出席率向上	外部講師を招聘しての合同研修会でも出席率向上。今後も計画的に実施。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情が出る前の 聞き取り等で未然防止	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	週報、月報等の 充実	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	契約書、年度初めに 開示可能な情報の確認	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	86%	0%	各種ツール活用	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	57%	29%	法人の行事に合 同で参加	放デイ行事への地域住民招待の検討、若しくは法人行事の中での地域住民との計画的交流を企画する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	57%	0%	送迎中の事故等のマニュアル共有	保護者への周知が不十分。急ぎ、検討
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	86%	0%	法人及び事業所単体で実施	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	86%	0%	外部研修出席者等からの伝達研修等実施	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	57%	0%	必要に応じて保護者との話題の共有をし、適切に記述する方向で検討	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	71%	0%	Drの指示書でなく、保護者からの調査票を基に実施	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	事業所内で共有した後、法人で集約	